

【講義】 特別支援教育コーディネーター 業務の実際

北海道富良野高等学校教諭
阿 部 順 二

経 歴

北海道豊浦高等学校（閉校）

滝川西高等学校（市立）・・・特別支援教育コーディネーター1年

北海道富良野緑峰高等学校・・・特別支援教育コーディネーター5年

北海道富良野高等学校（令和7年4月 統合）

日常的な取り組み

1. 支援対象者の認定
2. 支援計画の作成
3. 別室登校やオンライン授業の調整
4. 対象生徒や保護者との面談
5. 特別支援協議会への参加（市教委主催）

心がけていること

- ①支援対象者の早期認定
- ②学校としての一貫性のある支援
- ③保護者との面談

①支援対象者の早期認定（その1）

- ・ 早期とは → 連続的な欠席が始まる前に
（あるいは連続的な欠席の直後に）
- ・ ねらい →
 - ・ 生徒の状況が深刻になる前に支援に入る。
 - ・ 欠席にゆとりのある状態で今後について考えてもらう。

①支援対象者の早期認定（その2）

- ・ 認定後の対応 → **欠席数の緩和処置**
 - 別室登校やオンライン授業
 - スクールカウンセリング
 - 医療機関との連携

①支援対象者の早期認定（その3）

- 欠席数の緩和処置** →
- ・ 欠席に対するプレッシャーの軽減
 - ・ 親子が考える時間の創出
- ↓
- ・ 学校側からのアプローチ

②学校としての一貫性のある支援

- ホームルーム担任や学年の違いから生まれる
対応の違いを防ぐ → 学校として一貫性のある支援

③認定時の保護者との面談

- ・ 特別支援教育コーディネーターという存在を知ってもらう
- ・ ホームルーム担任が保護者に伝えにくい話は特別支援教育コーディネーターから伝える
- ・ 保護者の考えを知る

まとめ

- ・ 学校の支援は限られている。 → 最大限の効果が出るように
- ・ プロセスの重視 → 親子が考える時間
↓
子どもが行動する機会